

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご縁を頂いた入所者お一人おひとりが職員と共に穏やかな生活を送れるよう支援しています。今年度も、新型コロナ感染対策で様々な行事が中止されておりますが、入所者が不安や閉塞感を感じず笑顔が絶えないよう、職員が創意工夫しながら季節の行事を行っています。ご家族とのつながりを大切に考えており、可能な限り顔を合わせた面会が出来るよう、感染対策を行っています。感染対策について行政の情報を随時職員間で共有し、不明な点は行政に質問をさせていただく等、入所者の健康確保と安心に向け実践し、より良い支援につなげています。また、中庭の花壇には、季節のお花や野菜と一緒に育てています。気候の良い時は、東屋に腰を掛けて空を眺めたり、花や野菜の名前について話をしながら散歩されたり、デッキで日光浴をしながらお茶を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員の雰囲気が暖かく、笑顔の多い落ち着いた雰囲気が窺えました。職員同士のチームワークが強く、職員が支え合いながらチームとして入居者一人ひとりの不安のない生活を支援されています。入居者と家族のつながりを大切にされておられ、関係性が途切れないように家族にアルバムを持参して頂き、親子で見ながら面会をすることも増えているようです。壁面には入居者との協力で作成した折り紙を飾っており、職員の得意なこと・好きな物を活かしながら入居者を巻き込み日々楽しいことを思考しながら張りのある生活を送れるようにされています。入居者が日中過ごす居間は自由に出入りできるデッキがあり、又、広い中庭に出て花を見ながら会話したり、畑で野菜を育てるなど、おだやかな日常が窺えるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な研修を行い、当ホームの理念への思いや希望を知る事で全職員が同じ思いでサービス提供できるようにしています。	職員・管理者の関係値が高く全体での話あいがしっかり行われており、入居者ひとり一人の意向に沿った支援を日々思案しながら、楽しく不安の無い生活が送れるように努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ感染対策のため日常的な交流は行えていませんが、つながりが途切れないように参加できるものであれば事業所として参加しています。	感染症がまだ続いています。町内の活動が徐々に再開され始めており、今後地域サロンなどの参加やホームとして七イベントに参加したり、コロナ禍であっても地域との繋がりが途切れないように交流が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった時には、随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面で会議を行っています。ホームでの活動やコロナ感染対策の周知、包括支援センターから送付される情報を回覧する等介護サービス向上につなげています。	2か月に1度ホームの現状を書面で報告されており、町内からホームへの要望、包括からの情報を回覧するなど、会議を通じた交流がサービスの向上に繋がっている様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度、連絡をとり報告や相談をしています。	職員がコロナに感染した際に、岡山市高齢者福祉指導課に連絡・報告し円滑に情報を共有していました。必要な機関に連絡したり素早く対応することで日々利用者様の体調管理に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修、随時研修を行い、身体拘束をしないケアについて考え身体拘束ゼロに取り組んでいます。	職員一人ひとりが理解を深められるように継続して研修を行ったりしながら、身体拘束ゼロの支援に日々取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修、随時研修を行い、日々のケアについて話し合っています。また、職員同士でも意識し、注意することで虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修を行い制度や法律を知ること で必要な方への活用が出来るように支援 しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	分かりやすく丁寧な説明を心掛け、その都 度疑問点や問題点がないか尋ねています。 同意書が必要な場合はその都度書面を作 成し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	必要な時には、その都度話し合いの場を設 けたり、電話や面会時には積極的に声掛 け、意見や要望など反映させています。	職員と管理者の意思の疎通が図られてお り、家族から、又、外部からの情報、様子など よいと思うことは皆で話し合い反映に努めて います。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的又は随時に職員との話し合いの場を 設け、提案や意見を反映できるようにしてい ます。	ホーム長が職員のことを大切にした運営が 行われており、職員からの意見は円滑に反 映し、サービスの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	代表者は、職員からの意見はできるだけ対 応し、職員が向上心を持てるような環境づく りや条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	毎月の内部研修や外部研修の参加を促す とともに、各自の自己評価表を作成し、働き ながらトレーニングができるようにしていま す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	情報交換の際は、電話等で意見交換を行 い、感染症対策や認知症ケアについて話 し、サービスの質の向上に取り組んでいま す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人と面談するために、ご自宅や施設へ訪問させていただきます。その時困っていることや不安等を傾聴し、信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談以外でも電話等でコミュニケーションをとりながら、不安や要望に耳を傾け、安心していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームがご本人とご家族が必要としているサービスを提供できるか否かや他のサービスを含めた支援について対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全て職員が手伝うのではなく、ご本人がひとりで行えるところは行っていただき、「役にたっている」実感を得られるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで困っていることやご家族の要望を相談し、一緒に解決に向けて取り組むことで共に支え合う関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在は面会室での面会ですが、出来るだけ面会を受け入れられるよう最善を尽くしています。また、アルバム写真を見たり昔話をする事でご本人との関係性が途切れない様にしています。	面会室には日々の写真をボードに貼りホームでの生活が見れるように考慮しています。アルバムを家族と見て、若い時の景色や入居者の暮らしを回想する事で孤独感のない様支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などを工夫し、会話ができるようにしています。食事の配膳を行ったり、数人で洗濯物を片付けたりすることで、利用者同士の関わり合いを増やしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で現況を尋ねたり、話をすることで退所後の経過をアフターフォローを行い途切れない支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず入所前にご本人と面談し、生活の場を確認させていただき、入所後のサービスにつなげています。	本人との話し合いの中で思いを汲み取り、今までの生活を大切にしながら、ホームでの生活が不安のないものとなるように配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に利用していたサービス機関や病院等との情報交換を行い、暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、できる事、できない事の把握に努めています。職員間で情報を共有することで統一した対応が出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時にご記入いただいた「暮らしの情報」をもとに入所後もできるだけ変わらない生活を送れるよう支援しています。	本人、家族の意向、現状等照らし合わせながら情報共有し、介護計画を作成し個別ケアに活かしています。利用者様自身を周りの方々にも知っていただけるように取り組んでいます。	介護サービス計画書に認知症型の項目を加えて、家族、職員の理解を深めることでより個別ケアに繋がることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた日々の観察や記録をもとに職員間で情報交換を行い、ケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、訪問歯科など必要に応じて受ける事のできるサービスを利用したり、相談指導を受け対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活を豊かに楽しむ事ができるよう訪問理容を取り入れて支援したり、体力づくりに取り組めるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にはご本人やご家族の希望に添うように支援しています。外出や受診が困難な方には、往診を受けられるように対応しています。	入居者や家族の希望を取り入れながら適切な医療が受けられるように支援しています。委託医の協力もあり重度化しても安心できるように配慮しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡シートを活用したり、訪問日に直接相談しています。気になることがある時は、随時電話にて報告相談し、適切な指示を受け支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師やソーシャルワーカーと情報交換する等直接連絡を取ることで、早期退院ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで「できる事」と「できない事」を明確にし、ご本人、ご家族、かかりつけ医、訪問看護師と随時話し合い、意思確認を行っています。職員は、定期的に研修を行い、適切なチームケアと環境づくりに取り組んでいます。	入居前に看取りの説明は行っているが、利用者様の状況に合わせて随時話し合いの機会を設けています。医師などの協力もあり、ホームで出来る限りの終末期に向けた支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な初期対応が出来るようにマニュアルを作成し、定期的に検討会や研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼夜を想定した避難訓練を行っています。その時の課題や職員の感想はマニュアル見直しに活かしています。運営推進会議では最重要事項として地域の方々の協力体制を築いています。	停電や水災害の経験もあり、災害に対する意識の高い事業所です。入居者役、職員役に別れて実際に避難訓練を実践しており、避難場所での昇降機の練習をしたり、災害時に外でもガスが使えるように整備したり環境整備もされています。	今後も継続して天災害に対する対策を思案しながら取り組んでいくことに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めています。ご本人が安心する言葉を選び、声の大きさにも注意を払っています。	個人の病気や個性を知ること、声の間こえにくさなど配慮しつつ、周囲の環境を考えて言葉選びをして声掛けをするように努めている様子が窺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が今したいことやご本人が「選ぶ」ことができるような声掛けや対応を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活パターンを把握し、ご本人のペースに合わせた生活ができるよう支援しています。起床や食事時間などはできるだけご本人の希望に添って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを把握し、声掛けしながら衣類選びなどを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策のため一緒に食事はしておりませんが、配膳や片付けなどは一緒に行っています。また、月に数回は好きなメニューを決めて満足していただけるよう工夫しています。	好きなメニューを利用者様に直接聞いたり、イベントごとのメニューは食事を楽しむことの支援として、美味しいものを好きなだけ食べられるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を調節したり、必要な方には栄養補助食品も摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔保持できるよう支援しています。また、必要な時は訪問看護師と連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた尿パットを使用し、快適に生活できるよう支援しています。排泄パターンを把握し、自立に向けた支援につなげています。	利用者様一人ひとりの自立度を把握し、本人に合った計画を作成しています。利用者の歩行状況に応じてトイレに誘ったりして安易に排泄能力を奪わないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調節を行ったり、主治医や訪問看護師にも相談することで便秘の予防ができるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて入浴を行っています。また、ご本人が洗身や洗髪を出来る場所は見守り、足りないところは支援しています。	その日の様子に合わせて気分が向かない日は翌日に声を掛けるなど本人に合わせて入浴が行えるように支援しています。清潔保持に努め、健康管理にも繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な時に休めるよう支援しています。照明や室温など調整し安心して休めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりの薬の把握に努めています。薬の変更等があれば症状の変化を観察し報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習慣や趣味などはできるだけ続けられるように支援しています。新聞やテレビを見て談笑したり歌を歌ったりすることで気分転換できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染対策のため外出は控えています。中庭を散歩したりデッキで日光浴をできるように支援しています。	中庭での外気浴や畑で野菜を栽培して気分転換を図っています。他にも中庭でバーベキューをしたりして、室内だけの生活にならないように配慮されている様子が窺えました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所持、管理することはございませんが、買い物の希望があった時は購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族からの要望があった時は、随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が迷う物は置かず、スムーズに動けるよう配置しています。壁や廊下には、季節を感じれるものや写真を飾り楽しく移動できるように工夫しています。	生活の中での導線を大切し、不安のない共有場所を照明や雰囲気で作るよう努めており、壁面には入居者と職員の合作の楽しい作品や入居者の塗り絵を掲示するなど、楽しく過ごせるよう又、個々に合った生活が出来るよう配慮した様子が窺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せず、好きな時に好きな所へ行けるように支援しています。また、ソファなどでゆったり過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたものや自宅に飾ってあったものを使用していただく事で安心して暮らす工夫をしています。	馴染みの時計や置物を家族等の協力を得ながら身近に置くことで、不安を和らげ、共同生活の中で環境が変わっても安心した日々が過ごせる様支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を把握し、危険なものは取り除くことで自立した行動ができるよう工夫しています。		